

「指標を考える」

公益財団としま未来文化財団
地域文化課 南大塚地域文化創造館 有島

① 地域文化創造館（生涯学習事業施設）の事業の評価について

「公民館新任研修（2023年都公連新任職員研修）」受講資料を参考

（1）「学び」の成果

社会教育事業を定量化することは難しい。定性的指標を作るために

- ・ 事業参加者が学習を経てどのように変容したか
- ・ 生活課題や地域課題の解決にどのように寄与してきたのか
- ・ 長期的な視点で学習の意味を言語化する聞き取りなどの方法論

（2）「評価」の課題

- ・ 社会教育事業計画は、住民の学習要求や生活課題に即しているか
- ・ 事業終了後に「検証・評価」し、それをもとに次年度の事業計画化というシステムを職員集団として対応しているか
- ・ 評価を公表する仕組みが作られているか
- ・ 市（区）の教育振興基本計画等に、公民館事業評価が位置づけられているか
- ・ 公民館事業評価、運営評価に「市民（区民）の広汎な意見の反映」の方法を検討しているか
- ・ 公民館事業評価に公運審の位置づけをどのようにするか

② 過去の事業から 評価について考える

「としま養成ガイド」評価事例より

- （1）段階別学習内容：目標にむけての何を学ぶかステップごとに設定
- （2）講座設定：学習目標を明確にする。同時に評価目標・指標を作成
- （3）事前アンケート：参加者の事前の意識を整理⇒**学習を経て、どのように変容したか**
- （4）事前アンケート集計表：参加者全体の意識をとらえる・学習要求を探る
- （5）学習・評価票：講座受講後の意識について記述式 見える可で段階設定。新しい発見
- （6）学習・評価票集計：講座ごとの参加者全体の変容把握
- （7）評価集計表：設定した指標に対する実績結果・達成率を把握

以上のことから、質問事項の箇条書＝何を学ぶのか（学習目標）が決まることで、質問・変容を見ていく項目が設定されるため、上記（2）と（7）を重視した。

③ 今回の「指標を考える」について
「豊島区生涯学習推進ビジョン 第2章・第3章」

(1) 段階設定の項目：

第2章・第3章 生涯学習の推進に向けて「生涯学習の目標」 段階ごとの項目設定が必要

<参加者側>

- ・ 講座（各回）の目標は明確だったか
- ・ 講座の目標に到達できたか
- ・ 気づきがあったか

<運営者側>

- ・ 場の機会提供が適切にできたか<日程設定・会場設定・環境整備（託児など）>
- ・ その機会提供について適切に情報を届けられたか<広報は何を見て参加したか>
- ・ 講師・当日の対応人数は適切だったか

(2) 方法について：

- ・ 事前アンケート・事後アンケート
- ・ 内容によってはミニテスト⇒回答を配り、自己採点（自分のファイルに保管）
- ・ 講座毎回ごとの自由記述⇒提出後、コピーをとって、返却（自分のファイルに保管）

評価について、思いついた内容をメモいたしました。

ページの項目に沿っていなくて申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。

大澤 友美
スポーツ推進委員

「指標を考える」質問事項

講座を学ぶ前と後にアンケートをとり、学ぶ前と後の心境の変化をわかるようにしたらどうかと考えました。

・どんな目標をたてたか？

成果、期待、どうなっていたいか？

学ぶ動機

→目標は達成できたか？

新たな目標ができたか？

・新しい考え方、発想を得ることができたか？

できそうか？

・学んだことをどのようにいかしたいか？

どのようにいかしたか？

・良かった点

・改善点

・継続して参加したいか？

・他の講座にも参加したいか？

【第3回豊島区生涯学習推進協議会】開催に向けて

白根 由貴

学ぶ目的がはっきりしていたか

学びのテーマは明確だったか

資料は分かりやすかったか

学習内容の量は適切だったか

新しい考え方・発想を得ることができたか

主体的に取り組むことができたか

今後の活動に活かそうか

参加して良かったか

第3回豊島区生涯学習推進協議会に向けて

2023. 7. 21

豊島区生涯学習推進協議会委員

鈴木 晴美

「指標を考える」

1) 行政評価的として

学びの場（学習拠点）ごとの活動指標

- ・利用者数
- ・講座数
- ・申込者数
- ・受講者数
- ・終了後のイベント参加者数
- ・終了後のボランティア参加者数

2) 質的評価として

<学習評価の質問>

- ・学習内容に満足したか
- ・新しい知識・発見を得たか
- ・考え方に変化はあったか
- ・教材・資料はわかりやすかったか
- ・学習時間は適切だったか
- ・講師の話しはわかりやすかったか
- ・質問の時間は充分にあったか
- ・自分自身の学習目標は達成できたか

3) 量的評価として

- ・出席回数・出席率

以上

令和5年7月21日

委員 野瀬 博

【第3回豊島区生涯学習推進協議会】開催に向けて

「豊島区教育ビジョン」では「としま学びスタイル」の実現方針として「つどう」「つながる」「つくりだす」を掲げていることから以下の観点で質問項目を作成しました。

1. 「つどう」の観点

場と機会があることで、「学ぶ、振り返る、発信する、そしてまた学ぶ」という学びと活動の好循環をうたっているため、この「つどう」の学びと活動の好循環が行われるための規準として以下の質問項目を設ける。

- ①何を学んだか
- ②学んだこと振り返り、何を得たか
- ③学んだことをどのように発信したか
- ④学んだ結果再度学びたいと思ったか

2. 「つながる」の観点

学ぶ活動により人と人がつながるコミュニケーションを増進させ、学んだ成果を地域社会に還元していくことという観点から以下の質問項目を設ける。

- ①学ぶにあたり、どのような人たちと一緒に学んだか
- ②学ぶにあたり、どのように協働作業をしたか
- ③協働作業をする際に、異文化に触れることはあったか
- ④協働して学んだ結果何を得たか

3. 「つくりだす」の観点

学びの成果を生かし、学んだことが次の学びのサポートをすることで地域人材の育成を促したり、地域資源を活用したまちづくりを行うことで、新しい文化や価値を作り出すことを目指す観点から以下の質問項目を設ける。

- ①学ぶにあたり、どのような地域資源を活用したか
- ②地域資源を活用するにあたり、次の学びの活動につなげることは可能か
- ③学んだ結果、どのような新しい文化を作り出したか
- ④学んだ結果、どのような価値を作り出したか

以上、学ぶ人の側に立った質問項目を設けることで、次への活動につながる持続可能なシステムの構築ができるものと考えます。